

金糞岳道迷い(2006年6月)

持参した地図には、沢沿いに道を表す点線が引かれていた。道の分岐には、沢沿いの道は避けるように「警告」の看板があった。昼飲んだビールの力もあり、近道の沢を選ぶ。途中で道はなくなり、行動のスピードが落ちた。沢でビバークを余儀なくされ、翌日早々に登山口に下山した。



解説

二人での登山。地図を持参したが、古い地図だった。GPSを持っていたため、現在位置は確認できたが、ヘッドライトは持っていない。昼に飲んだビールが気持ちを大きくし、「警告」の看板を無視し、沢沿いの近道を選択する。道の分岐での決断は午後2時ごろと思われる。普通なら距離的にも問題無いのだが、「警告」の看板は嘘をつかない。沢の途中で、藪こぎになり暗くなった。午後7時30分に「ビバーク」を決断する。ツェルトや防寒着等は持っていなかったため、一晩寒い思いをした。翌日、午前6時に登山口まで戻ることができた。

正確には、「道迷い」ではなく、昔道であったところが廃道になり藪になったところを下ったのである。問題は、「警告」の看板を無視した判断、ヘッドライト・防寒着・ツェルト等の必要装備を持参していなかったことであった。日帰り登山でも最低限の必要装備は持ちたい。この事例は、「①地図は最新のものを持参(国土地理院のHPで事前にコースを確認したい。)、②行動中の飲酒、③必要装備の持参」の3つを大切にしなければいけないと考えられた。